



なびれぬまゆうすいち
名鱸沼遊水地を中心とした"しなやかな"水管理
災害を最小限にとどめる「減災」に通じる発想

"しなやかな"水管理 名鱸沼遊水地

美里町の南郷地域にある名鱸沼は、古くから大崎耕土の排水路である出采川が注ぎ、排水のたまり場でした。ここにためられた水は、江合川に放出されますが、豪雨で江合川の水位があがると、排水できなくなり、沼があふれて、ここ南郷地域が水浸しになってしまう低湿地で苦労した場所でした。

江戸時代、この場所の新田開発のために、周辺の丘陵部に名鱸沼からの排水路としていくつかの潜穴が掘られています。しかし、一度大雨が降ると四方から流れ出た川の水で名鱸沼は溢れかえり、周囲に甚大な被害をもたらし続けています。

現在は、遊水地を確保して河川からの溢れる水を、一部の水田に逃がすことで、ほかの水田や集落への浸水被害を最小限にとどめる方法がとられています。遊水地として洪水時には浸水しますが、入植にあたっては浸水してもその補償を求めないことを条件とされた場所でした。



【鳥谷坂潜穴】



【鞍坪潜穴】

明治に入ってからは、名鱸沼と、丘陵を挟んで東側にある広淵沼の用排水の問題で争いが起こります。大雨のたびに洪水に見舞われるため、名鱸沼の水位を下げたい遠田郡と、用水として名鱸沼の水を利用している広淵沼への水の確保のため、名鱸沼の水位を保ちたい桃生郡が激しく対立し、遠桃事件が起きました。

たびたび遠田郡長と桃生郡長の間で争いが起こっていましたが、明治22、23年の大洪水を受けて一部住民が実力行使へと出ます。堀を埋めようという事件が起こり、これに対し3つの裁判が起こされ、郡長は県に調停を求めましたが、事態は収束しなかったそうです。

裁判では解決しないことに気づいた住民たちは、根本的な用排水対策を検討し、治水工事、広淵沼の干拓と、長年の工事を経て、現在の名鱸沼の姿になっています。

鳴瀬川のハクチョウ

冬、鳴瀬川はハクチョウの飛来地となります。1000羽を超えるコハクチョウが飛来します。

鳴瀬川は中流部に位置する美里町までくると、流れがゆるやかになり、中洲が多くねぐらとして適した場所になります。美里町には餌場となる田んぼが広がり、雪も餌をとるのに困らない程度であることが、ここにコハクチョウが集まる理由です。

非常に迫力のある朝夕の飛び立ちとねぐら入りの光景や美しい鳴き声は冬の風物詩となっています。



美里の特産品「北浦梨」

北浦梨は、明治時代に旧中埜村の農家が、はじめて梨の苗木を導入し、続いて旧北浦村の農家が梨の栽培に成功したことが始まりとされています。大正時代から本格的な生産が始まり、現在の美里町北浦地区に定着しました。みずみずしくやわらかな触感の幸水をはじめ、豊水、あきづき、長十郎など様々な品種が栽培されています。宮城県内の梨4大産地の一つで、美里町を代表する旬の特産品です。

旬の時期には、北浦地域を通る国道108号沿いに梨の直売所が立ち並び、県内外からの人でにぎわいます。近年は北浦梨を使った「梨ストレートジュース」、「梨の冷製スープ」、「梨カレー」などの加工品を開発、町内の店舗でも買うことができます。地域の飲食店では梨を使ったデザートなどを食べることもできます。



Misato's Four Seasons

春 (4~6月) 雪解けの間から、菜っ葉が朝晩の汁に入ってくる。味噌玉をおろして味噌の仕込み。田植え時期には魚を買い入れ、甘酒の仕込みをし、共同作業の労をねぎらいます。

夏 (7~9月) 田んぼの草取りの時期。お弁当を持参し、ごはんを何杯分も食べながら作業をします。盆には新麦で手打ちうどんもつくります。

秋 (9~11月) お盆の後、枝豆が良い季節。稲刈り後、大豆の収穫、豆ひき、豆打ち、ダイコンを干し、漬漬漬け込み。稲の棒掛け作業にはゆでくりや甘柿、甘酒を持ち込み皆で作業をしました。

冬 (12~3月) 稲刈り後、正月準備として納豆ねせ、きな粉ひき、麦もやしからの水あめづくり、どぶろくの仕込み、漬物づくりを行います。正月が過ぎ、春彼岸の頃には味噌に、味噌玉が軒につるされます。



START

1 名鱸沼干拓 竣工記念碑

名鱸沼の干拓により、低湿地の苦難と水利の抗争から解放され、水田遊水地として基盤を確立しました。この竣工記念して、昭和52年5月、記念碑が建てられました。

大崎耕土案内板で名鱸沼遊水地の動画を見ることができます。

■住所/美里町練牛字大沢堤下354



2 出来川

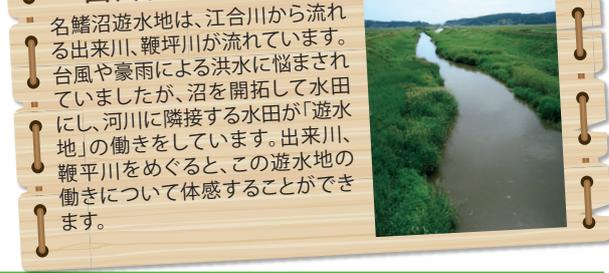
出来川は、もともとは名鱸沼に流れ込んでいた川です。干拓の際に、水門を通じて江合川に合流させています。増水の際には、江合川からの逆流で浸水し、それが長引くことが問題でした。

3 出来川非常用放流工(越流堤)

出来川が増水したときには、ここから名鱸沼遊水地に放流させます。堤防の一部を低くした場所に加えて、サイフォン式と呼ばれる仕組みで大量の水を放流させることができます。

4 鞍坪川

出来川の下を立体交差した後、ここを流れ、美里町南郷地域で鳴瀬川に合流しています。



おすすめルートプラン

移動時間:約1時間40分

START
1 名鱸沼干拓竣工記念碑

↓ 徒歩 1.5km 18分

2 出来川

↓ 徒歩 300m 4分

3 出来川非常用放流工(越流堤)

↓ 徒歩 800m 9分

4 鞍坪川

↓ 徒歩 550m 7分

1 名鱸沼干拓竣工記念碑

↓ 車 3.8km 9分

5 花野果市場

↓ 徒歩 1.7km 23分

6 鳴瀬川・感恩橋

↓ 徒歩 2.0km 25分

7 菜園レストラン野の風

↓ 徒歩 300m 4分

GOAL
5 花野果市場

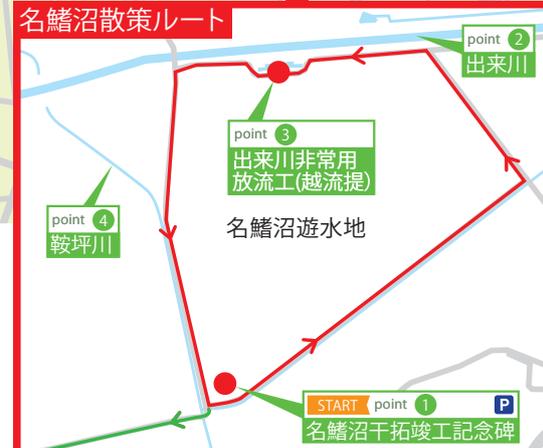
名鱸沼散策ルート 移動時間:約50分 距離:約3.7km
花野果他散策ルート 移動時間:約50分 距離:約4.0km

もしかしたら遭えるかも... このあたりの田んぼには、冬時期はマガンやハクチョウがみられます。夏にはヒバリを良くみかけることができます。

栄町



P 駐車場
→ 徒歩ルート
→ 車ルート
♂ ♀ トイレ



6 鳴瀬川・感恩橋

鳴瀬川では、冬の時期には白鳥がぐらにしています。朝、夕方には、たくさんハクチョウを見ることができます。ここ感恩橋は、篤志家野田真一氏が私財を投じて架けたものでした。

GOAL

5 花野果市場

地場産の新鮮な野菜をはじめ、もち加工品や漬物、お総菜など豊富に取り揃えています。農家レストラン「はなやか亭」では、大崎地域に明治以前から伝えられる精進料理「すっぽこ汁」などが大人気です。

大崎耕土案内板が設置されており、鳴瀬川のハクチョウについて知ることができます。

■電話番号/0229-59-1320
■営業時間/9:00~18:00 ■定休日/年3日間
■住所/美里町練牛字六号12



7 菜園レストラン野の風

旬の野菜を中心に使った郷土料理を提供します。おふくろの味をコンセプトに、なつかしくてほっとする「はっと汁」やしそ巻き、くるみ豆腐など人気です。しそ撒きなども体験できます。

■電話番号 /0229-59-1250
■営業時間 /11:00~15:00
■休館日 /水曜日、年末年始
■住所 /美里町練牛字十四号20

